

広島大学短期交換留学プログラム 派遣留学報告書

記入日	2018 年 3 月 27 日
派遣プログラム	<input type="checkbox"/> HUSA <input checked="" type="checkbox"/> USAC <input type="checkbox"/> UMAP
留学先大学	アンドレス・ベリヨ 大学 (国名: チリ)
所属学部・学科等名	
在籍身分	交換留学生
留学期間	2017 年 8 月 23 日～ 2017 年 12 月 15 日

1. 留学するまで

留学への志望動機・派遣先大学を希望した理由	自分の価値観を広げるために、想像もしなかったような新しい経験を求めて自分が一番知らない国に留学を試してみようと思った。大学の提携大学の中で、チリが日本から一番遠かったので、遠い国ほどよく知らないという原理からその国をピックアップした。
留学準備を始めた時期 (応募する何か月前ですか?)	留学プログラムに応募する1ヶ月前に応募に必要な語学試験の最後の説明会に参加をし、その日のうちに語学試験の申し込みをしたのが初めて。
事前準備について (どのような準備をしたか、しておけばよかったか)	ビザの取得、留学先までの往復航空機の予約。USACのマイページの登録(ホストファミリーとのマッチングなどMy Pの指示にしたがって進めます)。USACは基本的にアメリカ人向けのプログラムなので、My Pでアジア人は参考にしない項目はいくつかあります。

2. 渡航について

ビザについて	ビザの種類: 学生ビザ
	ビザ申請先: チリ領事館
	提出書類: ホームページ参照。
	手続きに要した日数: 3ヶ月くらい。
その他必要な事前手続き	アメリカで乗り継いでいくことが多いと思うので、その際はESTA(電子ビザ)の取得が必要になります。
出国年月日	2017 年 8 月 21 日
経路(往路)	成田→カリフォルニア→リマ→サンティアゴ
現地での出迎え	<input checked="" type="checkbox"/> 有(大学関係者・その他) <input type="checkbox"/> 無
到着後オリエンテーションの有無・期間・内容	<input checked="" type="checkbox"/> 有(期間: 8/23 内容: 授業スケジュールの配布、ホストファミリーの紹介) <input type="checkbox"/> 無
帰国年月日	2018 年 1 月 15 日
経路(復路)	ブエノスアイレス→ニューヨーク→成田

3. 留学費用について

支出額	総額	560,000		円
	内訳	渡航費（往復）	220,000	円
		ビザ申請手数料	10,000	円
		予防接種費用	0	円
		保険料	10	円
		教材費（授業料以外の学費）		円
		宿舍費（住居費）	0	円
		光熱費	0	円
		食費	250,000	円
		通信費（インターネット・携帯）	上記に含む	円
		交通費（宿舍－大学間）	上記に含む	円
		交際費	上記に含む	円
		その他（フィールドトリップ費）（ 費）（ 費）	80,000	円 円 円

4. 授業・修学について

授業の概要について （カリキュラム、プログラム、履修した科目、時間数、履修形態等）	Basic Spanish（週4回） Native culture（週2回） Latin America dance（週1回） Northern Chile field trip tour（長期休暇中に5日間）
単位互換希望の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
授業・勉強についての アドバイス （留学前の履修、留学中、単位取得等）	留学先では初心者のレベルからネイティブに近いレベルまで自分にあったレベルの授業を選ぶことができるが、日常会話はほとんどスペイン語で行わなければならないため、リスニングの能力をつけておくことが好ましい。（かくいう自分はスペイン語がほとんど聞き取ることができなくて非常に苦労をした）
日本と異なる授業形態 などにおける困難や挑戦（ティーチングスタイル・先生と学生との関係性など）	少人数で学生と教授が積極的にコミュニケーションをとりながら行われていた。授業中に学生が勝手に発言する（授業にあまり関係ないこと含め）自由な雰囲気であり、あまり授業で意見を言うことがない日本人学生は最初は戸惑うことがあるかもしれない。また、多言語でのディスカッションをさせられることが多く、ある程度の語学能力がなければとてもついていけない。

5. 生活等について

(1) 留学先の住居について

住居の種類	<input type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> その他（ホームステイ）		
住居の広さ	糸吉精広しい	同居人の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有（1人） <input type="checkbox"/> 無
住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 電気 <input checked="" type="checkbox"/> ガス <input checked="" type="checkbox"/> 水道 <input checked="" type="checkbox"/> 給湯 <input checked="" type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 風呂 <input checked="" type="checkbox"/> 水洗便所 <input checked="" type="checkbox"/> 暖房 <input checked="" type="checkbox"/> 冷房 <input checked="" type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> 固定電話 <input checked="" type="checkbox"/> インターネット <input type="checkbox"/> その他（テレビ）		

住居費	1ヶ月当たり (現地通貨)	約 〇 円
留学先での住居全般に関するアドバイス	ホストファミリーとの相性はあると思うが、日常的に多言語を話さないといけない環境が用意されているのは非常にお徳なので、ホームステイを勧める。	
(2) 医療について		
保険の加入先	<input checked="" type="checkbox"/> 本学指定の保険 <input type="checkbox"/> 留学先大学指定の保険 <input type="checkbox"/> その他 ()	
保険の補償内容	補償額 死亡 円、 入院1日 円 その他 ()	
留学前後での予防接種の必要の有無	<input type="checkbox"/> 有 (種類: 回数: 医療機関名:) <input checked="" type="checkbox"/> 無	
留学先国の医療事情 (日本と比較して)	私自身が留学に行くときは予防接種のことなどすっかり忘れていて何もせずに行ったが、帰国後に「南米は結構危ない病気が流通していて予防接種はするべきだった」と聞いてぞっとした。なので、万が一に備えて予防接種は留学前にするべき。滞在中幸い病院に行くことはなかったが、薬局の薬は結構効いた。	
留学先での健康管理、衛生面について特に注意すべきこと	チリは先進国なのでラテン系の国の中では比較的インフラ設備が整っている。水道水は飲めるらしいが、現地の人と日本人の胃袋は違うのでよほど自信がない限り水は買って飲むのが無難。トイレではティッシュは基本的に流さずにゴミ箱に捨てなければならないが、意外とやってみたら流れるもの。路上で売ってある果実などはおなかを壊しやすいらしい。	
(3) 危険を感じた地域、状況、安全管理において注意したこと		
チリは南米と比べたら比較的安全な国といわれているが日本と比べたらはるかに危険は多い。実際に同じ留学生で携帯やバックを盗られた友人が何人もいた。メトロ (地下鉄) やバスでは基本的に荷物は前に抱えて持っていたし、お金は何箇所かに分けて持ち歩いていた。そのように常に自分の所持品には注意をしておく必要がある。また、夜バーなどに酒を飲みに行くときは酔った後が一番狙われやすいので夜は他の人と行動するのが鉄則になる。		
(4) 食生活についてのアドバイス		
アメリカの文化の影響を強く受けているので外食はハンバーガーなどのジャンクフードが多く、日本にいるときの健康な食生活を維持するのは難しい。それは現地で道行く人のおなかを見れば一目瞭然だし、ベジタリアンでさえなぜか太っている人が多い。チリの料理は日本人の口にあっていと思うが、やはり日本の食べ物か恋しくなるときがくると思うので、日本の調味料などを持っていくのが良いと思われる。		
(5) 気候・服装についてのアドバイス		
朝と夜が非常に寒く昼間はかなり暑く、広島大学がある西条の気候を少しひどくしたような気候なので服装が難しい。薄手の服を重ね着して脱ぎ着がしやすい格好が良い。日本と違って乾燥しているので日陰に入ればかなり涼しいし、夏でも雨が降ればかなり冷え込む。チリは南半球にあるので、日本とは季節が逆なので体調管理をしっかりしたほうが良い。		
(6) 学内外の施設・設備環境について (インターネット環境含む)		
大学では、講義が行われる建物ではwifiが飛んでいるが、たまに接続できなくなったりもする。そのほかの設備は整っていて、飲料水は供給できるトイレもきれい。アンドレス・ベリヨ大学は学校のまともった敷地がなく、道路に面する形で建物が何個も並ぶので、どれが大学の建物かわかりにくい。食堂がないのでランチは普通の店かキヨスクみたいところで何か買って食べる。		
(7) 現地学生や地域との交流について (どのような、機会・きっかけがありましたか?)		

<p>USACではプログラム内の留学生だけで授業を受けるのであまりチリの現地学生と交流する機会がない。会話パートナーとしてチリ人の学生が留学生に一人ずつ振り分けられる制度があったのが、私のパートナーは一週間で他の町に引っ越したのであまり交流ができなかった。そのほか、留学生が好きなチリ人学生のグループがあったので、その中のチリ人とピクニックやパーティーを行う機会があった。</p>
<p>(8) 習慣やマナーの違いによる対人関係等, 注意すべきこと</p>
<p>最初のホストファミリーはUSACに対して私を他の家族に交換するように申請されたが(その理由はまだよくわからない)、一つの思い当たる節としてホストのおばあさんの前で大きなゲップをしてしまった。すぐに謝ったが、信じられないような顔をされた。日本でもゲップは確かに下品な行為であるが謝ればそれほど大事にならないことと信じていたが、海外では非常に下品な行為になってしまうということを学んだ(アメリカ人の友人は普通に大きくかましていたが)。</p>
<p>(9) 日本から持っていくべきもの, 持っていくべきでないもの</p>
<p>コンセントの穴の形が違う(チリは確かC型)ので日本のコンセントをはめる機器を持っていく必要があります。ただし、変圧器は携帯(iphone6)やパソコンを使うのには必要ありませんでした。日本食を作ったりする際に必要な日本の調味料(みりん、だしの素など)は持っていったほうがいいです(しょうゆは普通に売ってます。)</p>
<p>(10) その他生活等に関して参考となる情報・アドバイス</p>
<p>語学の参考書は留学先でたくさん手に入るのでもわざわざ日本から持っていく必要はないと思います。(荷物になるし重いので)ただし、日本語の本は現地ではあまり手に入りにくいので読みたいものは持っていくべきだと思います。</p>

<h2>6. 帰国後の進路について</h2>	
卒業予定年月	2019 年 3 月 (当初の卒業予定年月 2019 年 3月)
卒業が遅れる見込みの場合, その理由	<input type="checkbox"/> 4年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input type="checkbox"/> その他(具体的に)
現在の状況および今後の予定・進路等	同級生と同様に就職活動を行います。就職活動が解禁する3月の一ヶ月ほど前に帰国し、それまでインターンに行くなどの準備ができておらず、少しあせりました。
就職活動や留学前の単位取得, 教育実習等についての工夫	USACは基本的に語学学習が主なプログラムなので単位互換は最初からあまり期待しておらず、単位は3年次の前期までにできるだけとり終えるようにしました。教員免許も2年生までは取得を目指していましたが、3年生の後期にそれ関係の講義が受けられないと取得が難しいということで途中で断念しました。

<h2>7. 留学準備, 留学中に役立った書籍, ウェブサイト等</h2>		
書籍, サイト名	詳細(出版社, URL等)	コメント
地球の歩き方		日本語のガイドブックは一つ持っておくことを勧める。

<h2>8. 後輩へのメッセージ</h2>
<p>留学先では普段の日本での生活では絶対に会わないような人たちに会うことができた、というのが私が留学に行ってきたと思える大きな点です。例えば、留学先で会える外国人は日本に留学に来ている外国人とは少し違う感じがします。日本に興味があってわざわざ日本まで留学に来る外国人とは違い、そこまで日本のことを良く知らない外国人が日本人の私を受け入れてくれたときは本当に大きな感動があり、考え方など多くのことを学びました。すばらしい人に出会うためにも留学は大変良い機会になると思います。</p>

9. 自由記述 (1,200 字程度)

① 留学を終えての所感

USACは主にアメリカ人を対象にしたプログラムであるということもあり、今期留学生45人ほどの中で日本人は私一人だけでありそれ以外はほとんどがアメリカ人でした。そのため、授業やホストファミリーと話すときはスペイン語、他の学生と話ときは英語を使い、ネイティブのスペイン語と英語の勉強を同時にできるというお得な環境だったと思います。最初は両言語とも全然聞き取れず、コミュニケーションも取れない状態で戸惑いました。プログラムが終えるころにはアメリカ人学生ともある程度会話ができるようになり、プログラム後に一ヶ月間南米を旅行したのですが、そこでのスペイン語の会話に苦労しないくらいの基礎的なスペイン語も身につけられたと思います。

② 留学期間中、最も印象に残った体験・出来事

留学が始まった当初、アメリカ人学生の一人から「格は英語でコミュニケーションもできないじゃないか」といわれ、ショックを受けました。それ以降アメリカ人やチリ人の会話に積極的に入るようにし、休日も一緒に旅行に行くなどアメリカ人と一緒にいる時間をできるだけ作るようにしました。ネイティブの言葉の表現や発音の方法を真似て実践的な語学能力を伸ばそうと考えたからです。結果、アメリカ人の友人に「格はアジア人一人なのについてよくがんばっているね。」と言って認めてもらったときはこれまで語学学習をがんばってきて本当に良かったと思いました。

③ 留学の成果、留学前と比較して成長した点

語学スキルのアップはもちろんですが、私はこの留学を通じて人への向き合い方が変わりました。それまで、正直外国人は違う考え方や価値観をしている別の人種であるという意識を強く持っていました。留学先でノルウェー人の学生に出会ったときに、あたかも前から知っているような非常にフレンドリーに接してくれる態度に驚きました。彼女は私を日本人としてではなく一人の人間として試しているような気がしました。私がいつも人種の違いなど異なった部分に目を当てていた一方で彼女は人として共感できることなど共通した部分に目を当てているのだなと気づきました。それ以降、異なった価値観を持った人などと接する際に、自分と相手の共通項に目を当て相手を理解しようとする態度をとるようになりました。

④ 今回の留学での経験や成果を今後どのように活かしたいか (将来のキャリアパスも含めて)

英語は就職後にもずっと使えると思いますが、スペイン語は将来実践的には活かす場面はあまりないように思う、というのが正直な意見です。しかし、通訳のボランティアをしたり趣味の範囲で今後とも活かすことができれば良いなと考えています。また、言語を一つ覚えることでそれだけアプローチできる情報が増えることになるのは大きな利点になると思います。

注1) 報告書およびその内容は、留学希望者への情報提供のため、HUSA ホームページおよび広島大学ホームページへの掲載、事務室での閲覧や大学の留学情報案内の作成のために利用させていただきます (氏名及び学生番号については、非公開とします)。ただし、公開にあたり不適切と判断された内容については、国際交流グループにて削除等させていただきますので予めご了承ください。